



歯医者さんが教える 歯と口腔の健康管理

〔第5回〕 口腔粘膜疾患について①

監修／歯学博士 鹿島 健司

むし歯や歯周病そして前回の顎関節疾患の他、お口の粘膜の病気－口腔粘膜疾患も歯科で扱います。

皆さんも口内炎ができたり、誤って舌を噛んで潰瘍になってしまったりした経験があるかと思いますが、これらも口腔粘膜疾患の一部と言えます。

□ 腔粘膜の疾患は局所的なものから、全身疾患の部分症状として生じるもの、アレルギーに起因するもの、また、良性のものだけでなく悪性腫瘍（癌）の場合もあり、その病態は複雑多岐で診断が難しいケースもしばしばあります。

今回は、カラー写真を供覧しながら、お口の粘膜にできる主な病変についてお話ししましょう。

写真1、2は舌に生じたアフタ性口内炎で、比較的頻繁にみられるものです。副腎皮質ホルモン（ステロイド）の口腔用軟膏の貼薬により早期に治癒します。食事がしみにたり、触ると痛みが出たりすることが多いので、刺激物は避けてください。



写真1 アフタ性口内炎



写真2 アフタ性口内炎



写真3 下唇に生じた粘液嚢胞

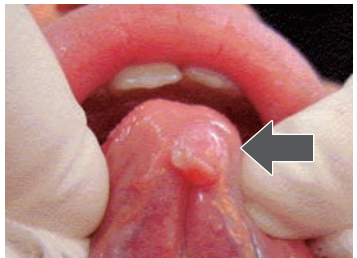


写真4 舌に生じた粘液嚢胞

写真3は下唇、写真4は舌の裏側にできた粘液嚢胞（ねんえきのうほう）です。半球状のやわらかい腫脹としてみられ、これは誤って噛んでしまったり、外傷や炎症などによって、主に小唾液線の出口が損傷されて分泌物が貯留することによって生じるもので、内容物は唾液です。粘液嚢

監修／鹿島健司（歯学博士）。1958年1月生。かしま歯科医院院長。著書に「診察のエア・ポケット、顎関節症…こんな患者が来院したら」他多数。

胞は表面が薄くて破れやすく、一度は治ったようになっても再発を繰り返すことが多く、そのような場合は切除摘出します。

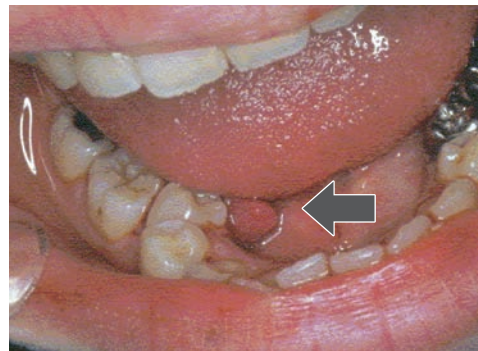


写真5 妊娠性エプーリス

エプーリスとは歯肉に限局的に形成された良性の線維性組織の増殖のことで、妊娠によって歯肉が増殖するものを妊娠性エプーリス（写真5）と呼んでいます。ほとんどが分娩後に自然消失します。妊娠中はホルモンバランスの変化によって歯肉が腫脹しやすくなるので、より一層お口のケアが必要になります。

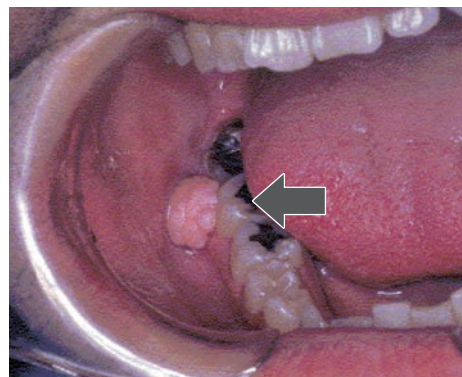


写真6 脂肪線維腫

写真6は奥歯の歯肉に生じた良性腫瘍です。このように歯の根の部分膨らんでくる症状は、原因が歯（歯根の先端にできる膿か歯周病）であることがほとんどですが、非常にレアなケースとして良性腫瘍であった症例です。原因は全く不明で、切除して病理検査によって確定診断できました。半年に一度の定期健診の際に、歯や歯肉だけでなく舌や粘膜の状態についても、かかりつけの歯科医にチェック・精査してもらうことも必要ですね。

（この項続く）